

---

# ~鏡~

岸田高貴

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

（鏡）

### 【Zコード】

Z0261Z

### 【作者名】

岸田高貴

### 【あらすじ】

夢と現実の冒険世界

バトルありしLOVEありそして少々のエロ

登場人物は個性的なものばかり。

主人公は現実世界へ戻れるのか！？

## プロローグ

「プロローグ」

僕は時々思つ「これは夢なのだろうか。それとも、現実なのだろうか。」と考えながら一人で歩いていた。  
といふで、ここがどこのか僕にも分からない。  
言つちやあなんだが、教えて欲しいものだ。  
確かこれは夢だったはず・・・？

ダメだな喋つてゐるのか思つてゐるのかもわからなくなってきた・・・

そんな感じで、多分結構な日が経つてゐる。

（（こんな感じで、数日間いや正確には6日間、歩いてゐるのは崎岳流である））

今から、6日前。

こつものように朝起きて鏡の前に立つ崎岳の日課である。  
（（（）で、今日も決まつてゐるな。なんて思ついたら、気持ちが悪い。ヤバイ寒気がしてきた。）

「（（））あれが来るんだよな。」

『ながる～早くしないと遅刻だゾー。』

（俺の名前を「ながる」と呼ぶのは、幼馴染の永墨（ながすみ）智吾（ともか）である。  
ついでに、こいつは文字だけ見たら必ず男子と思われる、確かに性格的に男なのだが。しかし、黙つていればすっごく可愛い子だ。）  
（ながるじゃなくて、りゅうだつて。）と思いながら、「わかつてゐて。」と答えておひつ。またどうせいつものだ。  
いつものワンパターンにそろそろ飽きてきてたころだなあ～。と思つた時だった。

いつものようにドアが開き、俺に向かつて通学用バックが飛んでく

る。それをクールにかわすはずだつた。

ドアを開くまではいつも通り、そこから、バツクつ。（って、あれ

?なんだこれ。）

まさかのドロップキック「グハッ」

そこからの記憶なし。

そしてこの場所にやつて來た。

## 第一章～RING the ring～

「あ～、疲れたア～」  
(ん、暇つぶしなら乗つてやるぜ)

「(こきなりどこからか声が聞こえてきた。しかし……)」

「?！」

「自分の思つてこむことすら違つてくるようになってしまったか。  
(おこねこ、そこはびっくりよ。)」

「一回びっくりしたみたけど、ダメだったか？」

（でも、お前の心の声じやないんだなあ）

「じゃあ、ビニ。もしかして……」

（実際痛いんだけど、あ、足踏んでるんだけど。）

（崎岳は、足元を見てみたが、何もない。よくよく見てみれば、・  
・・・）

「リング?まさかっ ふつ」

（それでース。リングですよ～）

「どれどれ？」

（一応、崎岳はリングを拾つておこた。持つてゐるのもなんなので  
指につけようかと思つたら・・・）

（ちょっと。また。兄さん勝手に付けられちゃあ困るねえ～）なぜ  
かリングが指に入らうとしない。大きさが違うわけでなく、磁石で

反発されているような感じがあつた。

「なんで。入らな。い、ん、だ?」

（俺の力、つけたいなら俺の条件を呑みな。

「条件ねえ～やだやだ。めんどくさいから、捨てるよ。  
(おこつ。ちよ。おまつ。捨てるとかマジねーわー)

「だつて条件だなんてめんどくせーじやん」

(分かった、とりあえず聞こうぜ。条件を・・・?)

((崎岳は、リングの話を聞かずに地面にリングを置いた。))

((いいから、条件なんてどうでもいいから。とりあえず一人にしないでください!!)

「あら、いきなり敬語になつた。じゃあ、遠慮なく。」

(順応はやつ。まあ、いいかあー。ん?でも、付けていいなんて言つてないなあ。あれ。くつ、してやられた。)

「といふで、君の名前は?」

((崎岳は、リングの名前を聞きたかつた。))

(やうねえ~じゅあ一応・・・)

「決まつていなら僕が決めよ。」

(えつ。えええ~)

「やうだなあ~BLACK RINGでどうだ?」

(そうか、何で英語だし。まあいいやあ~)

((タラタツタツタタ~新しい仲間BLACK RINGが増えた。とこう感じで新しい仲間が増えた崎岳出会つたのだが、ただの喋るリングだ。))

「ところでBR。いじり?」

(どいか知りたいなら、いじから北にずっと行くところよ。)

「分かった。行ってみるよ。」

((いの話は、いつ進むのか第一章ではきっと進むはずである。))

「待つていろお~東のどいかあ~」

## 第一章～巨兵～

(おー、待て)  
「?。なに?」  
(こまんて言つた?)  
「東のどこかへって言つたけど」  
(俺、北つて言つたよな)  
「マジかあ。」  
(（もし）RARと崎岳は歩を出した。実際歩いてるのは崎岳だけ)

（数日後）

((え)か知らない小さな街が崎岳の前には広がっていた) ) しかし…  
「へじたあ~」  
(へじだ。)  
「誰もいじゃん」  
人の気配が全然しないぞ。  
(あれ、おかしじ~な)。そりゃれば、あんたせんの名前を聞いて  
なかつたな)  
「今頃かよ、俺は崎岳 流」  
(崎岳 流かあ。改めてよろしく。….)  
(「…?」)  
(「だれ?」)  
(「だれ?」)  
(((崎岳の前を少女が駆け抜けて行つた。))  
「よし、追いかけるぞ・・・?」  
デノ、デノ、デノ、デノ、ゴオオオオオオオオ

((意味の分からぬ大きな音に恐怖を覚えながら振り返る崎岳))

「何」れ・・・・

(崎岳伏せるおおおおおつ)

((BRの一声でどうにか体の動いた崎岳の頭の上をすくこ勢いで何かが通り過ぎて行った))

「やばくね。」

(取りあえず逃げるだ)

「言われなくともつー。」

「もしかして、さつきの女の子もこれにて、お、追われてた、のかな

つ

((巨大な割には動きが遅い。といひでココウ足早いなあー・・・!)?)

((BRは、何か異変に気づいた。))

((おこおこ、早すぎぬ。時速70kmオーバーしてんだら))

(それでも、あの田兵は追いかけてくるつと。!!!--)

(まえまえまえ!!--)

「さつきの女の子ー!ー」

((さつきが早々で走っていた崎岳。さつき田の前を通つ過ぎた少女を田の前に見つかる))

「ナ」のつー・・・・消えた・・・・

今日は驚いてばっかりだな。

(お前の走るスピードに俺は一番驚いた。)

「で、あの女の子は?」

(テロヨージョンだる。それはいー。説明は後つ)

「やうだな、その前にこの巨大な生き物をどうにかしよう

((ココウ!手を前に!ー 違つ!リングのついた方!ー)

「いづか?でもなんでつ

((こきなりリングが光る。そこに出でたのはーきたこれ。銃だ

つと思つた崎岳。 . . . ( )

「何で刀！？」

( よし、成功！そのまま止まって、取りあえず今回は刀の動く通りに本能のまま動けっ！ )

「よし、やってみよう。」

( ( 崎岳は、刀が自分に染み込んでくる感じがわかつた ) )

「どうやあああああ

( ( 田兵は死んだ ) )

「疲れるわあ）。手首は変な方向に曲がるし、何もしてないのにボロボロだよ・・・」

( でも、あの刀良く使えたな。やつぱりすゞに奴？ )

「どうした？」

( いやつ何でも、

「ところで走つてゐる時に見た、ちょっと茶色がかつた、ショートの・・・身長は俺よりちよつと低い、ぐらいの女の子つて、なにしたの？」

?

( テレポートみたいなもんをしたんだよ。すぐに使わなかつたのは、テリュージョンつていう特殊な能力だつただからだろうな。 )

「へえ～。何かむつかしいな。」

( ところでリュウお前の身長いくらだ？ )

「ん、167cmだつたけつ。じゃあ、あの女の子は162cmぐらいだつたのかな。」

「よし、また。人探すか、次はあんな怪物に合わなくてすみよう。」

「

( ( 今日の経験で一度とあんな感じの怪物はゴメンだと思つた崎岳だつたのだが。 ) )

「ずずず、ズドン、ドコッ、ずだだあああああ

( ( 崎岳の背後には大きなものが迫つていた。 ) )

(「……そういう事ね。」)

第一章～END～

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0261z/>

---

～鏡～

2011年12月1日16時51分発行